+博論書式 3(論博書式 3)

令和 2　年　1 月　17 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分　　野	看護学分野
学籍番号	17S3004	院生氏名	天野　敏江
通学キャンパス	成田キャンパス		
論　文　題　目	重い精神障害をもつ人を支援する精神科訪問看護のための 教育プログラムの作成と評価		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

１．主論文について

1）研究の概要：本研究の目的は、重い精神障害をもつ人を支援する精神科訪問看護のための教育プログラムを開発し、その効果を検証することである。教育プログラム作成の方法論的枠組みとして、インストラクショナルデザインの基本プロセスである ADDIE モデルを用いている。先行研究、文献レビューから導き出された学習者のニーズをもとに、プログラムの目的をリカバリー支援に設定し、①訪問看護の目的と対象理解、②つながりと安心感を育む、③利用者の力を活かした生活密着型支援、④幻覚妄想の対処への支援の 4 単元からなる 2 日間（合計 10 時間）の教育プログラムを作成した。教育プログラムに参加する対象者は、1 年以上の精神科訪問看護の経験がある現任の精神科訪問看護師で便宜的抽出法による 28 名である。教育プログラムの評価は混合研究法（mixed methods research）で行い、量的調査は 1 群事前事後テストデザインであり、リカバリー支援の効果測定は、日本語版 16 項目 RKI(Recovery Knowledge Inventory)とストレングス志向の支援態度評価尺度を用いた。質的調査は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析された。量的調査からは、教育プログラム実施後に日本版 16 項目 RKI とストレングス志向の支援態度評価尺度の得点が有意に上昇した。質的分析では、リカバリーを見据えた共同的支援方法を獲得するプロセスが明らかとなった。以上のことから、本教育プログラムが、重い精神障害をもつ人のリカバリーを支援するための知識と技術、リカバリー志向の実践の向上に有効であることを明らかにした。

２）本研究の実施にあたっては、本学の倫理委員会の承認を得て実施されており適切な倫理的配慮がなされていた。論文構成、文献の引用についても適切である。

３）知見の新規性と価値：本研究の新規性は、これまでに効果的な教育プログラムの開発が不十分な重い精神障害をもつ人を支援する教育プログラムを開発したことにある。リカバリー支援の概念を中心に、ストレングス理論と認知行動療法の考え方を取り入れた本プログラムは、精神科訪問看護の実践力向上に貢献する研究として高く評価できる。

２．審査経過

2019 年 12 月 10 日に審査会を開催し、約 30 分の研究発表後、口頭試問を実施した。研究発表では審査員が事前に提示した量的データと経験年数の相関、今後の課題と提言の追記、質的研究の結果図の検討等に関する指摘・質問事項を的確に追加・修正された内容であった。審査会を踏まえ修正内容の整理および修正発表に基づいた論文の修正を求めた。1 月 6 日に修正論文が提出され、各審査員が内容を確認し適切に修正されたことを確認した。

３．口頭試問の結果

口頭試験においては、審査員の質問に対し誠実かつ適切に応答した。

４．以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主　査　　標　　美奈子
	副　査　　松谷　美和子
	副　査　　内川　義和